研究課題 (テーマ)	1年教養ゼミでの新たな取り組み —学生の起業意識を高める「アントレプレナーシップ醸成」プログラムの導入— (実施)		
研究者	所属学科等	職	氏名
代表者	教養教育センター	主任教授	平野 嘉孝
実施責任者	教養教育センター	准教授	清水 義彦
研究結果の概要			
<p>○遂行内容</p> <p>令和6年度前期・後期の教養ゼミ (清水担当) 30コマで実施した。15名のゼミ生がチームに分かれ、前期は企業2社との課題解決型キャリア教育講座で、後期は前期の習得したスキルとマインドをベースに、学生が日々の大学生活で感じている課題の解決案をチームでまとめ地域協働成果発表会で発表する過程でアントレプレナーシップを醸成することを目指した。以下、簡潔にその内容を報告する。</p> <p>前期：(株)学生は、5チームに分かれ、北陸博報堂からの課題「インターネットメディアを活用した富山県立大学のブランディング施策の立案」に5週間取り組んだ。その後、チームを再編しコーセル(株)と5週間新たな課題に取り組んだ。18歳が企業人へオリジナルの案を提案する緊張感の中での探究活動の過程に「アントレプレナーシップ醸成」という本プログラムの本質がある。後期は、学生自らが「県大生が喜ぶものを」というテーマを設定し3つのチームで活動した。チーム1「地域の便利情報オンラインサイト開設」、チーム2「教科書貸し出しオンラインシステム構築」、チーム3「起業資金を得るための投資法」。30週で学生は、自らの限界を超え、行動し、新たな価値を生み出していく起業意識を醸成していった。後期地域協働成果発表会投票数第2位。</p> <p>○キャリア形成活動による成果</p> <p>本講座の教育効果は、社会人基礎力(経済産業省,2006)を指標として定量分析している。以下の表の左は2024年度前期のスタートとゴールの平均値の差、右は前期のスタート時と年間ゴール時の平均値の差のt検定である。学生の起業意識を高めることを目的とする本プログラムでは、特に重視しているのは「1.主体性」「3.実行力」「6.創造力」「7.発信力」である。これら4つの能力要素は1%水準で有意差(効果量大)が現れてきた。そのほか6つについても0.1~10%水準で有意差が現れた。本事業が目指す「自ら枠を超えて行動を起こし新たな価値を生み出していく起業精神の要素が含まれている。</p>			
今後の展開			
本事業がキャリア支援プログラムの1つとして学内の恒常的な位置づけとなるよう、地域連携センター、キャリアセンターと協働し、講座を継続していきたい。			